

2013年3月24日

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

孫恵貞（ソン・ヘジョン）
東京大学大学院人文社会系研究科
現代文芸論修士二年
平成24年 夏学期 個人派遣

研究課題

多和田葉子の文学世界におけるムーブメント

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

派遣先：ドイツ、ベルリン：フンボルト大学
フランクフルト：ゲーテ大学

主な協力研究者および専門家

多和田葉子（作家）、劇団らせん館
イルメラ・日地谷=キルシュネライト（ベルリン自由大学日本学科教授）
シュテファニー・v・シュヌールバイン（フンボルト大学北欧文学科教授）

(2) 派遣期間

2012年6月4日～2012年8月22日（80日）

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

ベルリン在住の日本語とドイツ語のバイリンガル作家、多和田葉子の創作過程におけるムーブメントを対象として、一つの地域、ジャンルにとどまらない越境性を取り上げる。作家のパフォーマンスをはじめとする多彩かつ実験的な創作活動が、文学世界においていかに影響を与えているかを越境的・多言語的な創作のあり方、作家の文化的アイデンティティの形成過程の観点から、日本とドイツの両国における活動の比較を通じて明らかにする。

(2) 実際に達成された成果

1) 当初の目的であった研究対象の作家、多和田葉子の朗読およびパフォーマンスの研究は成功的に行われた。以下、そのリストである。

6月11日 朗読 ベルリンフンボルト大学

6月15日 朗読 フランクフルトゲーテ大学

7月6~7日 朗読 文学イベント ベルリンリテラトゥアーハウス

「インフルエンス、コラージュ、リミックス、プラギアリズム-
現代のライティングメソッド」(ZfL+フンボルト大学)

8月10日 朗読 ブックストア@ブンドেসアーレストリート

8月18日 朗読パフォーマンス (太極拳とテキストのパフォーマンス)
フリードナウリーディングナイト

2) 夏の盛大な芸術祭が集中した時期だったため、現在ヨーロッパでもっとも活発であるドイツのベルリン現地の朗読文化およびパフォーマンスリサーチを行い、日本における文学の朗読の実態と比較する可能性を開くことができた。主に、ポエジーフェスティバル (詩の祭)、ヴォイシング・レジスタンス (インターナショナルパフォーマンスフェスティバル)、The World is Not Fair - The Great World's Fair 2012 (演劇祭)、タンツイムアウグスト (八月のパフォーマンス際) にてヨーロッパにおける最新パフォーマンスの動向を調べることが出来た。

3) 現地で活発な活動を行っているパフォーマンス演劇集団の劇団らせん館の協力の下、研究対象である作家の多和田葉子の劇作品の稀少資料を得ることが出来、修士論文に大きな土台を作ることが可能となった。

(3) 今後の研究展望

現在執筆中の修士論文「五感で読む、多和田葉子」は作家として知られている多和田葉子の、テキストを超えた活動を中心に置くものである。今回の派遣で日本だけでなくドイツでの活動も取り入れることとなったので、これからの修士論文、また進学後の博士論文の方向性を整えて行くことが出来よう。近日掲載予定の「多和田葉子におけるアダプテーション」のアダプテーション研究第四号にその成果を発表することとなる。また次回の多和田の文学作品による演出朗読パフォーマンス (12月、ベルリン) に劇団らせん館から出演を提案され、これからの論文に実証性を加えた、実験研究の基盤を整えて行く予定である。